

1月定例教育委員会

資料報告

○資料報告一覧

- 令和4年11月定例県議会の概要について（各課共通）
- 第六期長崎県教育振興懇話会第1回会議について（総務課）
- 第68回長崎県小・中学校児童生徒美術作品展「子ども県展」について（学芸文化課）
- 令和4年度年末・年始各種全国大会結果について（体育保健課）

件名	令和4年11月定例県議会の概要について
概要	<p>1. 日程</p> <p>会期 令和4年11月25日～令和4年12月20日</p> <p>一般質問 令和4年12月1日～令和4年12月5日</p> <p>常任委員会 令和4年12月9日 令和4年12月20日</p> <p>2. 議案</p> <p>原案のとおり可決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第108号議案（予算議案） 令和4年度長崎県一般会計補正予算（第11号）のうち関係部分 ・第112号議案（予算議案） 令和4年度長崎県一般会計補正予算（第12号）のうち関係部分 ・第116号議案（条例議案） 職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例のうち関係部分 ・第134号議案（予算議案） 令和4年度長崎県一般会計補正予算（第13号）のうち関係部分 <p>3. 一般質問、予算総括質疑における主な質疑事項 （別添資料1～12頁）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツの振興について ～国体結果の総括と今後の取組について～ （八江利春議員） ○子育て支援と教育の充実について ～和の文化継承について～ （浅田ますみ議員） ○賑わいのある長崎県を目指す施策について ～スポーツ振興におけるeスポーツの活用について～ （浅田ますみ議員）

- 教育行政 ～不登校対策について～ (北村貴寿議員)
- 子供を守る取組について
 - ～生理の貧困について～ (山田朋子議員)
- 学校給食における郷土料理の提供について (山本由夫議員)
- ミライo n図書館の大村市移転による成果について (小林克敏議員)
- 教育行政について (千住良治議員)
 - ・不登校対策について
 - ・公立高校の入試と私立高校の推薦入試について
 - ・部活動について
 - ・コミュニティ・スクールについて
- 教育行政 (川崎祥司議員)
 - ・いじめ対策
 - ・不登校対策
- 子育て重視の施策について
 - ～学校給食費の無償化について～ (堀江ひとみ議員)
- 県北・佐世保の振興について (宮島大典議員)

4. 文教厚生委員会等における主な質疑事項 (別添資料12～23頁)

- 第108号議案 令和4年度長崎県一般会計補正予算 (第11号)
のうち関係部分
- 第112号議案 令和4年度長崎県一般会計補正予算 (第12号)
のうち関係部分
- 第116号議案 職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例
のうち関係部分
- 第134号議案 令和4年度長崎県一般会計補正予算 (第13号)
のうち関係部分
- 請願審査 1件
- 陳情審査 3件

○所管事務に関する質疑

- ・令和3年度児童生徒の問題行動等調査について
- ・令和4年度事務事業評価の結果について
- ・「風流踊」のユネスコ無形文化遺産登録について
- ・いじめ問題について
- ・令和5年度重点テーマに基づく主要施策について
- ・第三期長崎県教育振興基本計画成果指標の未達成項目について
- ・高校生の離島留学推進事業について
- ・学校給食費について
- ・教職員の働き方改革について
- ・教員不足について

<p>件名</p>	<p>第六期長崎県教育振興懇話会 第1回会議について</p>
<p>概要</p>	<p>1. 開催日 令和4年12月19日(月)</p> <p>2. 会議内容</p> <p>(1) 教育長挨拶</p> <p>(2) 委員紹介・理事者側出席者紹介</p> <p>(3) 会長選出 → <u>委員の互選により、本田委員を会長に選出</u></p> <p>(4) 事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第四期長崎県教育振興基本計画について ・ 第三期長崎県教育振興基本計画の進捗状況について ・ 教育を取り巻く現状等について <p>(5) 意見交換/テーマ「これからの教育・学校に求められるもの」</p> <p>【「意見交換」での委員からの主な意見】</p> <p>○不易と流行の重要性として、不易の部分では必修科目の学力をしっかりと身に付けさせることが必要。また、現行の学習指導要領の理念や主体的・対話的で深い学び、探究的な学びなどを通じて学び方を学ぶような人材育成について、様々な種類の高校で共通性を持って取り組んでいくべき。流行の部分では多様な生徒の受け皿として各種専門学科や定時制等の多様な学びを提供していくこと、また、校則見直しやLGBTQへの対応など生徒達自身の多様性を認めていくことも重要。</p> <p>○人材育成の観点から人をまとめる力、リーダーシップの育成が重要。また、自ら考え自ら行動する姿勢も重要で、それは個としてだけでなく人を巻き込んで行動するというリーダーシップにも繋がるもので、他者と協働することができる人材をどのように育成していくかは非常に重要。</p> <p>○何のために学ぶのかといったビジョンや目的を明確にするような教育が求められているのではないかと。それには社会科見学や職業に関する講話などの社会体験の授業を増やすことが重要。</p>

概 要

- グローバル教育によって、長崎という地域にあっても国際を身近に感じ、国際的視点で日本を考え、日本という視点で長崎を考え、生徒自身がどういう技術・知識を身につけておくべきかを考えることができる。また、言語を通じてその背景にある社会や文化、歴史等を学ぶことにも繋がる。少しでも早い段階からグローバル教育を行うことが効果的である。オール長崎で取り組んでいくべき。
- 高校生は一次産業や製造業、サービス業など本県や地域の特色ある産業を念頭に学ぶことも必要で、そういった高校生を地域が応援して一流に育てていきたい。
- 新たな地域づくり、地域コミュニティにおける小中学校の在り方として、子育てや生涯教育をはじめ様々な分野で、学校と地域住民が連携・協働し子どもたちの成長を支援していくことが必要。
- 情報化社会の中、幼児期に接する情報の質がその後の教育に極めて重要。学校・地域・家庭の三つの輪の中で教育が行われているが、もっと家庭教育の部分に踏み込むと成果があがるのではないか。
- 近年、DXやデジタル化が強調されているがやはりアナログの部分が一番大事だと思う。アナログの中でデジタルをどう使って、さらに大きなアナログをどう作っていくかというのを施策として展開していくことを考えていくべき。
- 教育のデジタル化やオンライン化が進む中においても、人が人を教えるということは忘れてはならない。そこを忘れては教育でなくなってしまう。やはり人間の体をもって、教員の力をもって教えていくということは少なくしてはならないと思う。
- 教員という仕事がすごくネガティブなイメージになっているし、現場の先生たちが疲れ果てて魅力がなければ教員の成り手はいなくなる。魅力ある教員であるために、現場の教員を元気にする必要がある。そのためにも働き方改革、働きがい改革が必要。
- 国の次期教育振興基本計画の基本的な考え方を見たところ、教員不足の問題や働き方改革も進めていく必要がある中で、学校現場でこれだけのことを全て実行しないとイケないと考えると非常に負担が大きく、相反しているような気がする。

概 要

- 基本計画には全ての考えられることがあがっていて、その中でのプライオリティ（優先順位）はそれぞれの状況に応じて学校現場で判断すればいいとポジティブに考えることも出来るのではないか。
- 新しい教育振興基本計画と働き方改革は両立していくべき。働き方改革は過渡期に来ており、新しい観点での取組が必要。
- 現行の計画では、生涯教育が中高年向けになっているように感じるが、若い世代向けの観点を盛り込み、社会人になっても自己成長できるように働きながら学べる体制を作って欲しい。
- やはり各世代での学びが大事。幼児教育の段階からどのように家庭を巻き込んで、そこから小中高に繋げて発展させ、地域社会として子どもだけでなく自分自身も生涯教育の中で学び続けることが出来るかを検討していくことが必要。
- 学校教育と社会教育の境目というのはほとんどないと感じている。次期計画ではその境目や壁がないような形のものが出来上がれば良いと思う。

件名	第68回長崎県小・中学校児童生徒美術作品展「子ども県展」について																		
概要	<p>1 目的 県内全ての小・中学生を対象に作品を募集し、作品展を開催することにより、小・中学生の図画工作・美術に対する関心を高め、併せて、創造の喜びを体験させ、豊かな心を養い、造形活動の活性化を図る。</p> <p>2 主催 長崎県教育委員会 長崎県造形教育研究会</p> <p>3 共催 長崎市教育委員会 佐世保市教育委員会 五島市教育委員会</p> <p>4 出品規定 (1) 対象 県内の小学校、中学校、義務教育学校並びに特別支援学校の小学部及び中学部の児童生徒が、本年度、授業で制作した作品 (2) 部門 絵画・版画・デザイン・立体 (デザインと立体は中学生のみ)</p> <p>5 審査 (1) 一次審査 …… 県内17ブロックで審査を実施し「入選」を決定 (2) 二次審査 …… 長崎市で審査を実施し「特選」を決定 (3) 特別賞審査 …… 長崎市で審査を実施し「特別賞」を決定</p> <table border="1" data-bbox="480 1160 1262 1420"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>85,605人</td> <td>84,096人</td> </tr> <tr> <td>作品数</td> <td>114,720点</td> <td>113,079点</td> </tr> <tr> <td>入選数</td> <td>8,183点</td> <td>8,430点</td> </tr> <tr> <td>特選数</td> <td>770点</td> <td>770点</td> </tr> <tr> <td>特別賞数</td> <td>60点</td> <td>60点</td> </tr> </tbody> </table> <p>6 作品展 ○ 総合展 長崎県美術館 県民ギャラリー 1月17日(火) ～ 1月22日(日) ○ 巡回展 佐世保市博物館島瀬美術センター 2月1日(水) ～ 2月5日(日) 福江文化会館 展示室 2月15日(水) ～ 2月19日(日)</p> <p>7 表彰 ○ 特別賞 知事賞、教育委員会賞、造形教育研究会賞 各20名 計60名</p> <p>8 表彰式 (1) 日時 令和5年1月22日(日) 13:30～14:30 (2) 場所 セントヒル長崎</p>		令和4年度	令和3年度	参加者数	85,605人	84,096人	作品数	114,720点	113,079点	入選数	8,183点	8,430点	特選数	770点	770点	特別賞数	60点	60点
	令和4年度	令和3年度																	
参加者数	85,605人	84,096人																	
作品数	114,720点	113,079点																	
入選数	8,183点	8,430点																	
特選数	770点	770点																	
特別賞数	60点	60点																	

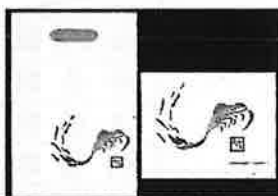
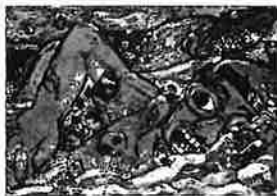


第68回 長崎県小・中学校児童生徒美術作品展

子ども県展

入場
無料

子どもたちの感性に浸ってみませんか？ 躍動する思い！ はじける表現！



掲載作品は昨年度の
「子ども県展」
知事賞受賞作品です。

長崎県美術館
県民ギャラリー

会期

令和 1月17日火▶
5年 1月22日日

開館時間

10:00~20:00

会場連絡先

095-833-2110

佐世保市博物館
島瀬美術センター

会期

令和 2月1日水▶
5年 2月5日日

開館時間

[入館17:30まで]

10:00~18:00

会場連絡先

0956-22-7213

福江文化会館
展示室(五島市)

会期

令和 2月15日水▶
5年 2月19日日

開館時間

[入館16:30まで]

9:00~17:00

会場連絡先

0959-72-5741

総合展

巡回展

※総合展・佐世保市巡回展は、特別賞・特選の全作品を展示。入選作品の展示はありません。五島市巡回展は、会場の都合上、特別賞全作品、五島市の特選作品・入選作品(平面)を中心に展示。

お問合わせ先 長崎県教育庁学芸文化課 教育文化班 TEL 095-894-3385
「子ども県展」事務局 長崎市立諏訪小学校 TEL 095-822-2870

■主催/長崎県教育委員会 長崎県造形教育研究会 ◆共催/長崎市教育委員会 佐世保市教育委員会 五島市教育委員会
■後援/長崎新聞社 西日本新聞社 朝日新聞社 共同通信社長崎支局 時事通信社長崎支局 株式会社 日本経済新聞社 長崎支局 毎日新聞社
読売新聞西部本社 KTNテレビ長崎 NIB長崎国際テレビ NCC長崎文化放送 NBC長崎放送 NHK長崎放送局 エフエム長崎
株式会社長崎ケーブルメディア TVSテレビ佐世保 榊五島テレビ 福江ケーブルテレビ 長崎県中学校文化連盟



件名	令和4年度年末・年始各種全国大会結果について
概要	<p>1 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ●別添一覧表のとおり

令和4年度年末・年始各種全国大会結果について

体育保健課

○令和4年度 冬季全国大会出場校（チーム）一覧（高等学校）

区分	競技名	大会名	会場	大会期日	性別	出場校等	備考	組合せ（結果）
高	駅 伝	令和4年度全国高等学校総合体育大会 (男子73回・女子34回)全国高等学校駅伝競走大会	たけびしスタジアム京都 付設駅伝コース(京都府)	12/25(日)	男子	瓊浦高等学校	7年ぶり6回目	44位
					女子	諫早高等学校	4年連続28回目	12位
	ラ グ ビ ー	令和4年度全国高等学校総合体育大会 第102回全国高等学校ラグビーフットボール大会	近鉄花園ラグビー場 (大阪府)	自:12/27(火) 至:1/7(土)	男子	長崎北陽台高等学校	5年連続21回目	2回戦 28-19 日本航空石川(石川) 3回戦 17-15 尾道(広島) 準々決勝 5-8 天理(奈良) 敗退
	サ ッ カ ー	第101回全国高等学校サッカー選手権大会	東京、神奈川、埼玉、千葉	自:12/28(水) 至:1/9(月)	男子	国見高等学校	12年ぶり24回目	1回戦 1(6PK5) 1北海(北海道) 2回戦 0(4PK3) 0尚志(福島) 3回戦 1(2PK4) 1青森山田(青森) 敗退
					女子	鎮西学院高等学校	3年ぶり10回目	1回戦 0(7PK6) 0佐久長聖(長野) 2回戦 2(3PK4) 2岡山県作陽(岡山) 敗退
	バスケットボール	WINTERCUP2022 第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会	東京体育館/大田区総合体育館 (東京都)	自:12/23(金) 至:12/29(木)	男子	長崎工業高等学校	9年ぶり2回目	1回戦 88-101 国学院久我山(東京) 敗退
					女子	長崎西高等学校	2年ぶり7回目	1回戦 60-51 和歌山信愛(和歌山) 2回戦 58-66 東京成徳大学(東京) 敗退
	バレーボール	ジャパネット杯春の高校バレー 第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会	東京体育館 (東京都)	自:1/4(水) 至:1/8(日)	男子	大村工業高等学校	2年ぶり19回目	1回戦 2-0 高川学園(山口) 2回戦 2-1 愛工大名電(愛知) 3回戦 0-2 駿台学園(東京)
					女子	九州文化学園高校	3年ぶり33回目	1回戦 2-0 横浜隼人(神奈川②) 2回戦 2-1 松山東雲(愛媛) 3回戦 0-2 古川学園(宮城) 敗退
	学	弓 道	第41回全国高等学校弓道選抜大会	熊本市総合体育館 (熊本県)	自:12/23(金) 至:12/25(日)	男子	長崎南高等学校	10年ぶり3回目
個人						山 川 真(長崎南山)		決勝進出
個人						松 口 樹 央(長崎南)		予選敗退
女子						島原高等学校	23年ぶり5回目	予選通過 1回戦 7-9 大垣商業(岐阜)
個人						折 口 真 実(諫早農業)		予選敗退
個人						出 口 奥 佑(長崎日大)		予選敗退
校	山 岳	第13回全国高等学校選抜 スポーツクライミング選手権大会	加須市民体育館 (埼玉県)	自:12/24(土) 至:12/25(日)	男子	長崎北高等学校		8位
					個人	古 賀 楓(長崎北)		46位
					個人	長 崎 瑞 樹(長崎北)		54位
					女子	大村高等学校		10位
					個人	本 多 恵 実(大村)		81位
					個人	本 田 雪 乃(大村)		73位
					個人	古 賀 日 和(長崎北)		45位
ホ ッ ケ ー	第54回 全国高等学校選抜ホッケー大会	川崎重工ホッケースタジアム (岐阜県)	自:12/23(金) 至:12/28(水)	男子	出場なし			
				女子	川瀬高等学校	2年連続7回目	2回戦 0-1 立命館(京都) 敗退	

○令和4年度 冬季全国大会出場校（チーム）一覧（中学校・一般）

区分	競技名	大会名	会場	大会期日	性別	出場校等	備考	組合せ（結果）
中 学 校	駅 伝	令和4年度 第30回全国中学校駅伝大会	滋賀県希望が丘文化公園 スポーツゾーン芝生ランド (滋賀県)	12/18(日)	男子	諫早市立西諫早中学校		22位 2区(3Km)百田選手 区間賞(09'33")
					女子	諫早市立西諫早中学校		33位
	バレーボール	第36回全国都道府県対抗中学校バレーボール大会	大阪市中央体育館他 (大阪府)	自:12/25(日) 至:12/28(水)	男子	長崎県選抜チーム		予選リーグ 1-2福井 1-2東京 敗退
					女子	長崎県選抜チーム		予選リーグ 1-2大阪南 2-0愛知 決勝T進出 決勝T1回戦 0-2北海道 敗退
	ハンドボール	第31回JOCオリンピックカップハンドボール大会	とくぎんトモアリーナ他 (徳島県)	自:12/25(日) 至:12/28(水)	男子	出場なし		
					女子	長崎県選抜チーム		予選リーグ 17-28大阪 13-23三重 敗退
	ラグビー	第28回全国ジュニアラグビーフットボール大会	江東区夢の島競技場(東京都)	自:12/24(土) 至:12/26(月)	男子	長崎県選抜チーム		第1グループB 1回戦 5-48神奈川県スクール代表 3位決定戦 39-0茨城県中学校代表 第1グループB3位
	一 般	駅 伝	天皇盃 第28回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会	広島県	1/22(日)	男子	長崎県選抜チーム	
皇后盃 第41回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会			京都府	1/15(日)	女子	長崎県選抜チーム		12位
第67回全日本実業団対抗男子駅伝競走大会			群馬県前橋市	1/1(日)	男子	三菱重工	14年連続24回目	4位

別添資料

令和4年11月定例県議会の概要について

各課共通

令和5年1月

令和4年11月定例県議会の概要について

概 要

「一般質問」での教育委員会関係の主な質疑応答

八江 利春 議員

◇スポーツの振興について

(1) 国体結果の総括と今後の取組について

- ①長崎国体での天皇杯獲得から数年で順位が低迷しており、危機感を感じている。栃木国体の総合成績45位という結果を、県はどのように総括し、今後どのように取り組むのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

栃木国体では、本県選手団は日頃の練習の成果を発揮できますよう懸命に大会に臨みましたが、これまで得点源でありました少年種別の入賞が大幅に減少しましたことから、改めて、ジュニア層におきまして、確実に得点が期待できる個人競技の選手育成と、接戦を勝ち抜く団体競技の強力なチームづくりの重要性を認識したところであります。

併せて、今回の大会では、国体に照準を合わせた選手や選抜チームの強化、また全国レベルの大会で力を発揮できる指導者の育成も大きな課題となりました。

このため、競技団体に対しましては、鹿児島国体に向けた具体的な目標設定と年間強化計画の作成を早期に求めますとともに、国体の主力となる高校生を重点的に強化するための事業の見直しを進めてまいります。

さらに、県スポーツ協会等と連携し、指導者の県外研修への派遣や県内外の全国的な実績を持つ指導者を招きました研修会を拡充するなど、全国レベルの選手育成や強化に欠かせない優秀な指導者の育成に努めてまいりたいと考えております。

- ②競技力向上のための組織体制の改善や強化費の確保についてはどのように取り組むのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

まずは、いまお話にありました「長崎県競技力向上対策本部」が中心となりまして、県スポーツ協会、各競技団体、関係機関と国体強化に向けました役割と連携の在り方につきまして改めて確認して、組織体制の強化を進めていきたいと考えているところでございます。

浅田 ますみ 議員

◇子育て支援と教育の充実について

(1) 和の文化継承について

- ①国や地域の伝統や文化、歴史など和の文化の継承について、どのように支援していくのかお尋ねしたい。

(知事答弁)

茶道や華道など我が国で伝承されてきた和の伝統文化は、大切な歴史や人々の思いを今に伝える貴重な文化遺産であることから、それを未来へ継承していくことについては、我々県民の重要な責務のひとつであると考えております。

併せて、和の伝統文化は、次代を担う子供たちの豊かな人間性であったり、日本人としてのアイデンティティ、またグローバルな価値観を育てるためにも欠かせないものでございます。子供たちが和の伝統文化に身近に触れ、習得できる機会を増やしていくことは非常に重要であると考えております。

- ②茶道専門部の設置に向けて、県が積極的に動いて、茶道や華道に親しむ子ども達が活躍できる場所を増やすことができないか、お尋ねしたい。

(教育長答弁)

現在、公私立高等学校80校のうち40校で茶道部が、13校で華道部が、3校で茶華道部が活動しております。これは地域行事や自校の文化祭のお茶会等で日頃の練習成果を発表しているところです。

現状は、学校単位の活動となっておりますので、専門部を設置することで、学校間の交流、あるいは県下の高校生が集う高等学校総合文化祭での発表が行えるなど、生徒達の活躍の場が広がるのではないかと考えておりますので、専門部の創設に向けて、所管しております高等学校文化連盟に働きかけていきたいと考えています。

◇賑わいのある長崎県を目指す施策について

(1) スポーツ振興におけるeスポーツの活用について

- ・教育の分野でも、eスポーツの活用を進めていきたいが、教育長の見解をお尋ねしたい。

(教育長答弁)

民間会社のアンケート調査によると、男子中学生の将来なりたい職業の第2位にプロeスポーツプレイヤーが入っております。非常にeスポーツは子供達にとって身近なものになっていると考えております。

現在、県立高校の中では大村工業高校において、eスポーツの教育効果について検証するプロジェクトに取り組んでいるところでございます。その中で、生徒たちは互

いに目標を持って教えあうことで成長し、コミュニケーション力の向上や基本的な生活習慣の改善などが見られると伺っています。

e スポーツは県立学校の魅力化や不登校対策にもつながる可能性があると考えておりますので、今後、教育分野での活用について検討してまいりたいと考えています。

北村 貴寿 議員

◇教育行政

(1) 不登校対策について

①令和3年度の不登校児童生徒数が、全国と同様、本県においても過去最多となっている現状を、どのように捉えているのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

不登校の児童生徒が増加した理由としては、コロナ禍で生活リズムが乱れるなど、登校する意欲が湧きにくい状況の中で、様々な悩みや不安を抱える子供たちが増えてきているのではないかと考えております。

一方で、本県において、登校できるようになった不登校児童生徒の割合は、令和3年度は5割弱と、前年度よりも1割程度高くなっていることから、学校や教育支援センター等による早期支援や、スクールカウンセラー等による教育相談の効果が一定表れたものと考えており、これまで以上に、市町等と連携した支援に努めてまいります。

②不登校児童生徒支援対策の検討状況はどうなっているのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

不登校の児童生徒が、社会的自立に向けた確かな一歩を踏み出していくためには、子供たちの主体的な行動意欲を高め、自己肯定感や自己有用感を醸成していくことが、大変重要であると考えております。

このため、現在、美術館や博物館等の文化施設、少年自然の家などの青少年教育施設、あるいは、地元プロスポーツ団体など、本県ならではの社会資源を活用し、子供たちが段階的に「これならできるかもしれない」「やってみたい」といった思いを育てていくための市町と連携した新たな取組について、検討を進めているところです。

山田 朋子 議員

◇子供を守る取組について

(1) 生理の貧困について

・現時点での県立学校での配布・設置状況、及び、今後の方針についてお尋ねしたい。

(教育長答弁)

県教育委員会では、本年度、全ての県立学校に配置しております。

引き続き、生理用品を準備できない児童生徒が、安心して学校生活を過ごせるよう取り組んでまいります。

山本 由夫 議員

◇学校給食における郷土料理の提供について

- (1) 郷土料理を食べることで、歴史やその土地の風土などを知る機会ともなり、食育の推進にもつなげることができる。学校給食での郷土料理の提供状況はどうなっているか、また、県下の市町で一斉に郷土料理を提供するような取組をさらに広げられないかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

学校給食では、日頃から、具雑煮や浦上そばなどの郷土料理が提供されておりますが、特に、毎年1月24日から実施されます全国学校給食週間におきましては、すべての市町で、県内各地の特色ある郷土料理を取り入れております。

学校給食での郷土料理の提供は、ふるさと教育を推進する上でも有効であると考えておりますので、今後とも積極的に取り入れていただきますよう、市町に対して働きかけてまいります。

また、学校で作成いたします食育だより等に郷土料理の由来やレシピ等を掲載するなど広く紹介することで、家庭でも郷土料理を食べていただけますよう一層の普及啓発に努めてまいりたいと考えております。

小林 克敏 議員

◇ミライオン図書館の大村市移転による成果について

- (1) 大村市移転による成果とまちづくりへの貢献について

- ①開館から3年が経過した、ミライオン図書館の現状について、来館者数や貸出冊数、全国の都道府県立図書館の中での位置づけはどうなっているかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

ミライオン図書館への来館者数につきましては、令和元年度が10月オープンからの半年間で約26万4千人、令和2年度が約32万5千人、令和3年度が約37万4千人であります。

貸出冊数は、令和元年度が約52万冊、令和2年度が約82万冊、令和3年度が約92万冊、うち個人貸出冊数は約86万冊となっております。

都道府県立図書館といたしましては、日本図書館協会の速報値では、来館者数は全国7位、個人貸出冊数は全国2位となっております。

- ・旧県立図書館と比べて、市外からの利用状況や利用者の年代はどうなっているのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

利用者の居住地につきましては、旧県立図書館では市外からの利用者が全体の1割程度であったものが約3割へと増加しております。

また利用者の年代につきましては、専用の学習スペースを十分に確保したことにより、10代の中高生の利用が増え、また、子供用の閲覧席や子供トイレなど親子が利用しやすい設備の充実により、30代から40代の子育て世代の利用が増えるなど、利用者の年代の幅が広がっております。

- ②ミライオン図書館は社会教育施設のひとつであるが、同時に、地域のまちづくりにも大きな影響を与えるものとする。長崎県や大村市のまちづくりに対して、どんな貢献が考えられるのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

ミライオン図書館は、県市一体の図書館となることで、蔵書の充実が図られるとともに、幅広い分野でのイベントや講演会等が実施されるなど、新たな魅力や価値を創出することができているものと考えております。

その結果、昨年度の来館者数の月平均は約3万人となっており、これは人口約9万5千人の大村市におきまして、人口の約3分の1にあたる人流が毎月生まれるということで、まちの活性化にも還元しているものと思っております。

また、ミライオン図書館は、先ほどのお話にございましたとおり、全国有数の蔵書数を持ちます。知の拠点でありますとともに、環境にも配慮した優れたデザイン、これは大村、また長崎のまちのシンボルとして定着しております。そういったことを考えますと本当に地域の皆様にも愛される図書館に育っているということを実感しているところでございます。

- ・今後取り組む課題として、デジタル社会の到来の中、どんな対応を考えているのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

ミライオン図書館につきましては、これまで、県内全域での利用を支援するため、各地域の図書館と連携しました「返却サービス」或いは「お取り寄せサービス」を実施してきたところです。

来年2月からは、電子図書館サービスを開始することとしており、離島半島地区にお住まいの方や、仕事や子育て等で来館が難しい方などにも、より便利にご利用いただけるようになります。

このようなデジタル社会に対応する取組を通しまして、県内全域の皆様にご利用いただき、より一層愛されるミライオン図書館を目指してまいりたいと考えております。

千住 良治 議員

◇教育行政について

(1) 不登校対策について

①登校児童生徒が増加するなか、その支援のため、現在どのような取組を行っているのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

昨年度の本県の不登校児童生徒数をご指摘のとおり過去最多となっており、その支援を重要課題として、引き続き、効果的な取組を行っていく必要があると考えております。

このような中、各市町においては教育支援センターでの支援や、あるいは家庭訪問等によるアウトリーチ型の支援が行われており、県においてもスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置をはじめとした教育相談体制の充実に努めているところです。

②不登校児童生徒に対し、ICT等を活用した学習支援を行っている市町及び出席扱いとしている市町はどれくらいあるのか。また、この場合の出席扱いについては、県下同一の基準なのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

現在、不登校の児童生徒に対して一人一台端末を活用した学習活動はほとんどの市町で行われており、このうち、14市町で出席扱いとするケースがあったとお聞きしております。

この場合の出席扱いについては、「学校と保護者の連携がとれている」ことや、「訪問等による対面指導が適切になされている」ことなど、文部科学省の通知に示されている基準に基づき、一定の要件を満たしている場合において、最終的に学校長が判断することとされております。

③全ての不登校の子供たちが進学や次のステップに進んでいけるよう、市町に対して出席扱いに係る具体的な指針を示すなど、ICTを活用した支援体制が整備されるようにしていくべきではないかと考えるが見解をお尋ねしたい。

(教育長答弁)

ICTを活用した学習活動は、家から出ることができない、あるいは、近隣に教育支援センターやフリースクールがない子供たちの学習の機会を確保する上で有効な手法であると考えております。

一方、市町によっては、文部科学省通知の趣旨を踏まえた出席扱いの検討が十分になされていない現状もあるのではないかと考えております。

このため、出席扱いに係る留意事項等を盛り込んだガイドラインを県で策定し市町に示し、今後不登校児童生徒の進路保障につながるよう、市町教育委員会とも連携してまいりたいと考えております。

(2) 公立高校の入試と私立高校の推薦入試について

①前期・後期試験に改めた現行入試制度は3年目を迎えた。課題についてどう考えているのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

公立高校の入学者選抜試験につきましては、令和2年度から、前期と後期に分け、前期試験では、基礎学力検査や小論文、またプレゼンテーションなどにより教科の学力だけではなく、生徒の持つ多様な能力や意欲を評価できる選抜を行うこととしていくところです。

この前期試験では、従来の推薦入試と違い、生徒が希望すれば、全ての受検生が自ら行きたい学校を選んで受検できるというメリットがある一方、不合格となったことで、その後、学習意欲が低下し、後期試験をあきらめた生徒がいたという話も伺っております。

現行制度も3年目となったことから、今後は、中学・高校の学校関係者をはじめ、保護者や受検を経験した高校生など、様々な立場からの意見を聞き取りながら現行制度の検証を行い、よりよい入試制度となるよう努めてまいります。

②私立高校における特別入試について、今後、部活動の地域移行が進む中、学校はできる限り生徒の進路実現の後押しをするべきではないか。

(教育長答弁)

スポーツ等の推薦による進学を希望する生徒に対しては、部活動での努力やその成果を称えることは重要であります。また、あわせて学習面や生活面においても教師が教え導くことで人間的な成長を促し、できる限り進路の実現を目指す指導が大切であります。

また、今後、部活動の地域移行が進んでまいりますので、学校と地域の指導者が情報を共有し、連携して生徒の進路実現を支えていく必要があると考えております。

(3) 部活動について

① 中学校部活動地域移行の現状と指導者資格の義務化の方向性について

- ・部活動の地域移行の状況について、現在の進捗状況はどのようになっているのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

現在、国において地域移行に関する「総合的なガイドライン」を策定中でございます。これを参考に、それからまた、県の方で外部有識者からなります検討委員会も設置しておりますので、そういった皆さまのご意見もいただきながら、本県版の部活動地域移行に関するガイドラインを策定する予定としております。

一方、各市町の方におきましては、それぞれ移行に向けたスケジュールや環境整備につまましての検討が進められているところでございますので、今後、先ほど申しました国や県が示すガイドラインを参考に、具体的な活動方針や内容を取りまとめていくということになります。

- ・指導者の資格取得義務の方向性はどのようになっているのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

指導者資格の義務化につまましては、国の方で、競技団体等が主催する大会に参加する監督・コーチにつまましては「公認スポーツ指導者資格」の取得を義務付ける方向でございます。これを受けまして、現在、日本スポーツ協会におきましては、より多くの指導者の皆さまが資格取得を目指せるような制度について検討が進められているところでございます。

② 高校部活動については今後どのように変わっていくのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

高校におきましては多様な教育活動が行われておりまして、部活動に特色を有する学校もあること、また、生徒自らの意思で進路決定するなど中学校とは異なる状況にありますことから、現時点では、国においては、地域移行の対象とはしておりません。

ただ、高校の部活動につきましても、少子化の影響によりますます様々な課題や中学生の地域移行によるスポーツ活動の動向を踏まえながら、今後部活動数の見直しあるいは地域人材の活用、学校種を越えての合同練習など、将来にわたって持続可能な子どもたちのためのスポーツ環境を今後検討していく必要があると考えております。

③地域移行後の教員のかかわり方について、教員の兼職兼業の在り方はどのようなになっているのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

部活動の地域移行後、地域クラブ活動での指導を希望する教員は、勤務地の市町教育委員会から兼職兼業の許可を得て指導することが可能になります。

兼職兼業の許可にあたっては、教員の意思を十分に確認するとともに、勤務校における業務への影響、教員の健康面への配慮などについて今後勘案していく必要があると考えております。

(4) コミュニティ・スクールについて

- ・コミュニティ・スクール導入の拡大が、学校の働き方改革につながり、また、部活動の地域移行に大きな役割を持つと考えるが、その現状と今後の予定についてお尋ねしたい。

(教育長答弁)

本県におきましては、コミュニティ・スクールの導入校の事例を見ましても、登下校の見守り、農業体験や地域学習の支援などがありますので、教員の負担軽減が期待される取組だと思っております。今後、部活動の地域移行を円滑に進める上で、学校と地域が連携することが重要でありますので、さらなる導入を推進してまいりたいと考えています。

川崎 祥司 議員

◇教育行政

(1) いじめ対策

- ・いじめを発生させないため、児童生徒間において、自尊感情や人を尊ぶ心を醸成させるコミュニケーション能力を身に付けさせることが重要と考える。いじめ根絶に向け、どう取り組むかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

いじめの多くは、自尊感情の低さやコミュニケーション能力、情動コントロールの未熟さなどが原因となって起こるものと考えており、これまでも「長崎っ子の心を見

つめる教育週間」などの取組を通して、他者への思いやりや規範意識の醸成など、よりよく生きるための基盤である道徳性を養ってきたところです。

また、現在、子どもたちが望ましい人間関係を育むことができる教員向けの実践事例集を新たに作成しているところであり、これを全ての学校に配布し、グループワーク等の場面で効果的に活用していただくことで、子どもたちが互いに認め合い、支え合う風土を醸成し、いじめの根絶に向け全力で努めてまいります。

(2) 不登校対策

- ・公が設立するフリースクールの運営を、民間に委託する官民連携のフリースクールが稼働しているが、教員の負担が増加する中、その支援に長けた民間の活用について見解をお尋ねしたい。

(教育長答弁)

不登校児童生徒を、学校現場や教育委員会だけではなく、社会全体で支えていくという観点から、民間の力を活用することは大変重要であると認識しております。

このため、県の不登校支援協議会において、専門家やフリースクール等関係者からご意見をいただきながら、現在、美術館や博物館、地元プロスポーツ等民間の力を活用した新たな支援対策について、次年度に向けた検討を行っているところであり、今後市町教育委員会とも連携しながら、不登校支援の一層の充実に取り組んでまいります。

堀江 ひとみ 議員

◇子育て重視の施策について

(1) 学校給食費無償化について

- ①全国的には学校給食費の無償化の動きが広がっている。県内市町の無償化等の状況はどのようになっているのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

現在、県内21市町のうち、学校給食費の保護者負担の一部無償化や一部補助を実施している自治体が5市町ございますが、完全無償化を実施している市町はございません。

- ②学校給食費無償化について、国は自治体の判断で実施できるとの認識を示しているが、県の認識をお尋ねしたい。

(教育長答弁)

学校給食法におきましては、学校給食の食材等に要する経費は保護者の負担とすることと規定されております。

ただ、文部科学省によりますと、設置者の判断により保護者の負担軽減を図ることは可能であるという見解を示しており、県教育委員会としましても、同様の認識を持っているところでございます。

③県内の小中学校の学校給食費を無償化する場合の財源規模はどの程度となるのかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

公立小中学校における学校給食費の無償化を実施するとした場合、必要となる財政負担額につきましては約46億円が見込まれます。

④「子育て重視の施策」として検討する考えはないかお尋ねしたい。

(教育長答弁)

学校給食は、学校給食法の規定に基づきまして、学校の設置者と保護者の経費負担により円滑に実施されるものでありますことから、学校給食費の無償化につきましては、まずは設置者である各市町において適切に判断されるべきものと考えております。

併せまして、県が市町に対して支援を行うことにつきましては、本県の厳しい財政状況を踏まえすと困難であると考えております。

宮島 大典 議員

◇県北・佐世保の振興について

(1) 県北地域に位置する県立学校において、グローバル教育を行っている学校の状況についてお尋ねしたい。

(教育長答弁)

県北地域におけるグローバル教育の推進のため、来年度から文理探究科が設置される佐世保南高校、猶興館高校においては、ネイティブスピーカーとの1対1によるオンラインレッスンを取り入れ、実践的なコミュニケーション能力の育成に努めているところ です。

また、国際コミュニケーション科を設置している佐世保商業高校では、海外ホームステイなど語学力を高める独自のプログラムや様々な国際交流の機会に自ら参加することで、身に付けた語学力と国際感覚を生かして、卒業後は、地元の観光業に就く生徒もいます。

今後はさらに、米軍基地をはじめとした国際色豊かな県北地域ならではの特長を生かした国際交流を進めながら、主体性や積極性を備えたグローバル人材を育成してまいります。

「予算決算委員会 文教厚生分科会」での教育委員会関係の主な概要

【議案】

- 第108号議案 「令和4年度長崎県一般会計補正予算（第11号）」のうち関係部分
 - 第112号議案 「令和4年度長崎県一般会計補正予算（第12号）」のうち関係部分
- 可決

「文教厚生委員会」での教育委員会関係の主な概要

【議案】

- 第116号議案 「職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例」のうち関係部分
- 可決

【請願審査】

- 第3号請願 「ゆきとどいた教育を求める請願」
- 不採択

【陳情審査】

- 陳情番号57 「要望書」（島原市）
- 陳情番号61 「要望書」（五島市）
- 陳情番号75 「要望書」（島原半島振興対策協議会）

【議案外】

- 令和3年度児童生徒の問題行動等調査について
（饗庭敦子委員）

公立学校問題行動等調査について、暴力行為が、長崎県では540件、前年度より34件増加となっているが、どのような暴力行為が増加し、その要因をどう捉えているのか。

また、暴力行為を減らしていくことが必要だと思うが、減らしていくために、県としてはどのような対応をしているのか。

（児童生徒支援課長）

令和3年度の暴力行為については、生徒間暴力が小学校で160件、中学校で181

件と多くなっている。また、器物破損についても小学校及び中学校で前年度から増加している。

最近の傾向としては、生徒間暴力の低年齢化が進んでおり、自己アイデンティティの始まりの時期に、対人関係でうまくコミュニケーションが図れないなどして暴力行為に走るというケースがあるものと考えている。

暴力行為を減少させていくためには、第一に子供たち一人一人が他者を思いやり、傷つけない人に育つということを意識した校内の雰囲気作りや、道徳教育や人権教育、あるいは法教育も必要である。そして、子供たちを指導するのではなく、発達支持的な視点で支援をするといった観点が重要であり、警察やスクールサポーターと連携しながら、暴力の防止、非行防止に向けた取り組みを進めていく。

(饗庭敦子委員)

子供たちの心に寄り添い、暴力行為をなくしていくためには、スクールカウンセラーが大きな役割を果たしていると思うが、スクールカウンセラーで対応できない場合もある。そのような子どもへの支援はどうなっているのか。

(児童生徒支援課長)

まずは、身近な大人にSOSを発信できるような教育を、各学校で取り組んでいただくことが重要である。あわせて、24時間こどもSOSダイヤル、メール相談、SNS相談といった相談窓口を子供たちに周知するなど、教育相談体制の充実を図っている。

□ 事務事業評価の結果について

(饗庭敦子委員)

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー活用事業費について、全て「改善」となっているが、具体的にどのように改善していくのかお尋ねする。

(児童生徒支援課長)

エリア校方式や、グループ校方式の活用を進めていく。また、現在離島部に配置しているスクールカウンセラーについて、離島を往復する旅費多額となっていることから、来年度の採用に向け、新たに離島に在住して勤務できる方を募集し、旅費を節約したうえで、配置の拡充を図っていくこととしている。

(饗庭委員)

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの資質向上をどのようにして図っているのか。

(児童生徒支援課長)

新規採用者に対しては、年度当初に研修会を行っており、全体としては、定期的な研修会の中で、好事例やうまくいかなかったケースの事例を共有するなど、資質向上に努

めている。また、本年12月には、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー及びコーディネーターである教員の、3者合同研修会を予定している。

□ 不登校児童生徒について

(松本洋介委員)

不登校の児童生徒の増加の背景と対策についてお尋ねする。

(児童生徒支援課長)

不登校の要因は個々の子どもの状態によって複雑に絡み合っており特定することは難しいが、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響による生活環境の変化から、子供たちの生活のリズムが乱れ、友人関係や進路などの様々な不安要因が増大し、登校する意欲が沸きにくい状況にあったことが増加の要因の一つとして考えられる。また、不登校の子供たちが学校に登校するという結果のみを目標とするのではなく、自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指すという教育機会確保法の趣旨が世の中に浸透しつつあることも、増加の一因となっているものと考えている。

不登校の対策としては、各学校において、新たな不登校を生まない魅力ある学校づくりに取り組んでいただいております。加えて、14市町に設置されている教育支援センターにおける早期の支援、あるいはスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置拡充などをおし、教育相談体制の充実を図っている。このような支援の結果、令和3年度は、学校に登校できるようになった不登校児童生徒は、全体の47.4%と前年度から1割程度高くなっている。

(松本洋介委員)

スクールカウンセラー等で対応はしているとのことであるが、教育現場の中でだけでは限界があるのではないかと危惧している。このような中、学校に行けない子供たちを受け入れるフリースクールが少しずつ増えていると聞いているが、フリースクールの設置状況と利用者数はどのようになっているのか。

(児童生徒支援課長)

不登校児童生徒がどのような支援を必要としているのかを見極めながら、子供を適切な機関につなぎ、多様な学習の機会を提供することが重要である。その一つとして、現在県内に14施設ほどフリースクールが設置されており、利用者は令和2年度末で44名、令和3年度末で69名と、少しずつ増加している。

(松本洋介委員)

フリースクールとの連携の在り方について、どのように考えているのか。

(児童生徒支援課長)

多様な学びの場所として、フリースクールの存在というのは重要であると考えてお

り、年度内に県、市町、フリースクール等民間団体の皆様との意見交換の場を設け、連携を一層深めていきたいと考えている。

(松本洋介委員)

奈良県では官民連携型のフリースクールの設置例があると聞いている。不登校児童生徒が増加する中、フリースクールとの連携の在り方を見直していくことによって、支援の効果も上がると思うが、教育長の見解は。

(教育長)

本県の不登校児童生徒が昨年度過去最高だったということは、重く受け止めなければならない。また、学校現場や行政の力だけでは限界があり、フリースクール等民間の力も借りながら、多様な学びの場を実現していく必要があると考えている。今後フリースクールとの意見交換の中で、他県の先進事例の紹介、あるいは、現在、県教育委員会で策定を進めている出席扱に関するガイドラインをお示ししながら、子供たちが一歩でも学校に近づいていけるよう、民間とも連携しながら取組を進めていきたい。

□ 「風流踊」のユネスコ無形文化遺産登録について

(松本洋介委員)

「風流踊」がユネスコ無形文化遺産に登録された。この中には、本県の「大村の沖田踊・黒丸踊」、「平戸のジャンガラ」、「対馬の盆踊」が含まれているが、そもそも登録された理由というのは、どのようなものがあるか。

(学芸文化課長)

登録の主な理由としては2点あり、1点目は、盆踊りや念仏踊、太鼓踊など各地の歴史や風土に応じて伝承され、世代を超え、地域全体で伝承されていること。特に、災害の多い日本においては、災害地域の復旧の精神的な基盤となるなど、文化的な意味だけでなく、社会的な機能を有していること。2点目は、地域間の対話や交流を促進し、地域の人々の絆としての役割を持つ無形文化遺産の保護・伝承の事例として、国際社会における無形文化遺産保護の良い取組事例となることが挙げられるとされている。

(松本洋介委員)

「大村の沖田踊・黒丸踊」に関して言えば、国指定となった際は「郡三踊」といって「寿古踊」も入っていたが、寿古町は世帯数が少なく、子どもたちもいないことから維持が出来ないとのことで辞退された。少子化やコロナの影響もあり、地元では、どうやって伝承していくか、維持が厳しいとの声が挙がっている。今回の無形文化遺産に登録された「風流踊」の継承に対する支援について、どのようになっているのかお尋ねする。

(学芸文化課長)

今までの国・県の指定文化財に対する補助メニューを使って、引き続き各地域におい

てしっかり継承されていくよう、衣装・道具の新調や修理、ホームページやパンフレットの作成等の広報、後継者育成にかかる伝承教室や講演会、発表会といった人材育成などの補助を行っていきたいと考えている。

□ いじめ問題について

(宮本法広委員)

午前中の総務部の審査において、私立高校におけるいじめの重大事態に関し、当該女子生徒が県立高校に転校した後も「いじめがまだ続いている」と答弁があったが、どのような状況なのか。

(児童生徒支援課長)

現在県立学校で発生している事案については、現在、学校、県教委、警察と連携しながら対応に当たっているところであるが、機微な情報も含まれていることから、具体的な答弁については差し控えたい。

(宮本法広委員)

当該生徒に対する学校のサポート体制はどうなっているのか。

(児童生徒支援課長)

事案が発生した10月以降、学校では周囲の聞き取りや全校集会を開くなど、いじめの再発防止に向け全力で取り組んでおり、また、教職員による日々の見守りを行っている。

(宮本法広委員)

スマートフォンがいじめの原因となるケースも増加していると思うが、スマートフォンの所持率は、小・中・高でどうなっているのか。また、その使い方について指導しているのか。

(児童生徒支援課長)

令和3年度の調査において、小学校の高学年が49.7%、中学校が67.1%、高等学校が97.7%所持しているとの結果となっている。また、現在、全ての学校において、「SNSノートながさき」を活用した授業を行い、スマートフォン、特にSNSの扱いなど、情報モラル教育を行っている。

(宮本法広委員)

一般質問において、いじめ対策のための実践事例集を作成しているとのことだが、いつごろ完成するのか。

(児童生徒支援課長)

子供たちの自己肯定感の醸成、あるいは適切なコミュニケーションの力を向上させるために、ぜひ各学校に活用していただきたいと考えており、不登校支援協議会での意見を踏まえ、来年3月までに完成したいと考えている。

(宮本法広委員)

いじめ根絶に向けては、子供たちの自尊心を高めていくこと、あるいは教員が観察する能力や対応力を向上させていくことなど、全ての方向から子供を守る仕組みを考えていく必要があると考えるが、教育長の決意を伺う。

(教育長)

いじめについては、絶対にあってはならないと考えており、そのための環境づくりに取り組んでいる。特に、最近 SNS を原因とする事例が見受けられるが、SNS は便利である反面、相手の顔が見えない、あるいは知らないところに拡散するなど大きないじめに繋がることもある。

現在作成を進めている事例集では、学級や学校をどの児童生徒にとっても落ち着ける場所にする居場所づくり、それから、全ての児童生徒が活躍し、お互いに認め合う、子供が安心して学校にいけるような環境づくりなど、実践的な内容になると聞いており、地域全体で子供を支える機運を高めていきたい。

□ 令和5年度重点テーマに基づく主要施策について

(宮本法広委員)

令和5年度重点テーマに基づく主要施策(素案)の予算化に向けて検討を行う主な事業の中で、新規事業として障害のある子供の活躍応援事業費というのが計上されているが、どういったものなのか。

(特別支援教育課長)

障害のある子供の活躍応援事業は、特別支援学校に通う障害のある児童生徒に対する取組である。小中学校の不登校児の中には、心身ともに疲弊した状態に陥って、自己肯定感が著しく低下してしまい、特別支援学校に転入学してくる子供たちがとても増えている。

他にも小中学校で頑張っていた軽度知的障害や発達障害のある子供でなんらかの原因で精神疾患など2次障害に陥り、特別支援学校に進路変更してくる子供たちも増えている。

共通して、子供自身に前向きな感情や表出そのものが少なくなるが、このような子供たちの感じる力はとても高く、それを再び身近な生活の場や地域や学校の中で主体的に学んだり、喜びを得たり、自信を取り戻したりするための支援の在り方が、学校現場では喫緊の課題となっている。

この取組では、特別支援学校が実施主体となり、例えば特別支援学校の子供たちも1人1台端末を持っているので、イラストや映像などをきっかけにデジタルアート、デジ

タル写真、文化芸術活動の体験をきっかけに自分で表現し、周囲に認められる経験の中で表現することの楽しさから、気持ちや態度が外に向かうよう効果的な支援の在り方を研究して参りたい。

支援メニューについては、文化芸術分野とスポーツ分野のそれぞれにおいて、まだ自己を発揮することに躊躇している段階、自己を表現することに気持ちが向いてきた段階、自己肯定感を引き出す段階にある子供向けのものなど、障害のある子供1人1人の状態を把握しながら、それらに応じたものを実施できるよう検討してまいりたい。

□ 第三期長崎県教育振興基本計画成果指標の未達成項目について

(鵜瀬和博委員)

「夢や憧れがある児童及び夢の実現に向けて行動している生徒の割合」及び「中学校卒業時に英検3級程度以上の英語力を持つ生徒の割合」について、未達成となっているが、状況と達成に向けた今後の取組をお尋ねしたい。

(義務教育課長)

小中学校においては、夢や憧れを持つ小学生、また、夢の実現に向けて行動する中学生を育てたいと考え、キャリア教育の充実に取り組んでいるところである。特に、中学校においては、キャリア教育と融合したふるさと教育のモデル校を設置し、その推進に努めている。その検証として、県内小中学生の意識調査を行っており、目標とする100%には届いていないが、基準年の80.9%が86.9%と着実に向上している。特に中学生の伸びが大きく、基準年の69.8%から83.1%と約13ポイント向上し、中学生の意識が大きく変化しているという手応えを感じている。しかしながら、目標には達していないため、これまでの取組を踏まえ、ふるさと教育と重ね合わせながら、この取組を展開してまいりたい。

小中学校におけるグローバル化に対応した教育の推進については、中学校卒業時に英検3級程度以上の英語力を持つ生徒の割合を60%にすることを指標に掲げ、特に中学校英語科教員の授業力向上に重点を置いた取組を進めている。60%には届いていないが、基準年の38.8%から47.0%と約8ポイント向上している。なお、本指標は、文部科学省が実施する全国調査に基づいた数値であり、これまで全国平均を3ポイント程度下回っていたが、令和3年度は全国平均と並ぶことができた。グローバル化に対応した教育の推進については、総合的な施策を今後も検討しながら取組を継続していきたい。

(鵜瀬和博委員)

体力の向上と学校体育の推進で、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査における全国平均以上の種目」も未達成となっているが、現状と今後の達成に向けた取組について、お尋ねをしたい。

(体育保健課体育指導監)

全国体力・運動能力、運動習慣等調査については、対象は小学校の5年生の男女、そして中学校2年生の男女である。種目は、握力、反復横跳びや50m走など、小学校男女でそれぞれ8種目、中学校男女で各9種目、合計の34種目となっている。

目標値の設定については、成長期における子どもの体力の向上において、特定の種目に偏ることなく、全身的なバランスの調和が必要であると考えており、全34種目での全国平均以上と目標を高く設定をしていることから、成果指標は未達成状況となっている。

令和3年度に、全国平均を上回った種目は、19種目であり、小学生の男女は、合計点では全国平均を下回っているが、中学生は男女ともに全国平均を上回る結果となっている。本県の特徴としては、持久力の種目では、小学校男女、中学校男女ともに全国平均を上回り、特に中学校の男女は、全国トップレベルである。しかし、柔軟性については、小学校中学校ともに、全国平均を下回っている。そのほか全国平均を下回る種目についても、わずかに数値が低い状況であり、極端に体力レベルが低いということではない。

また、未達成になった主な要因は、全国的な傾向でもあるが、運動時間の減少、テレビやスマホ、ゲームなどの学習以外のスクリーンタイムの増加、また肥満傾向等々が考えられる。また、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、学校の活動が制限されたことや、学校以外の体力向上の取組が減少したことなどが複合的に影響したのではないかと考えている。

□ 令和4年度事務事業評価の結果について

(鵜瀬和博委員)

「ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業」について、令和4年度で終了となっている。将来、県内に就職してもらうためには、この事業を継続することが重要と考えるが、終了とする理由と今後の対策は。

(義務教育課長)

本事業は、ふるさと教育とキャリア教育を融合させた本県独自の取組として展開しているものである。本事業は令和3年度と令和4年度の2カ年計画で実施している。今年度は県内9つの中学校にモデル校として取り組んでもらっており、ふるさとの魅力を伝えるオリジナルグッズの開発や、ふるさとのPR動画の作成、地域貢献を目的とする株式会社設立など、多様な取組が現在展開されているところであり、確かな成果を子どもたちの意識調査等からも感じている。これまで中学生をターゲットとして取組を進めてきたが、ふるさと教育の推進については、今後も推進すべき重要な課題であると捉えているため、現在の課題を踏まえながら、小学校、中学校、さらに高等学校までつながりのあるふるさと教育を推進する事業について現在検討しているところである。

(鵜瀬和博委員)

しまの「ミライ」応援事業については、9月議会で教育長から、今後もリーダー育成に寄与する取組として推進していきたいとの説明があり、評価結果においても継続した取組を進めていくとあるので、見直し区分は、終了ではなく、改善ではないのか。継続する場合はどのように改善し推進していくのか。

(生涯学習課長)

本事業は、事業期間を令和2年度～4年度の3年間としていることから、見直し区分としては、本年度をもって一旦終了という形になる。ただし、本事業へのニーズは高く、参加児童や保護者、該当市町からも高い評価を得ていることから、趣旨や内容を継承する新規事業を令和5年度から実施できるよう現在、予算要求しているところである。

事業の改善点としては、訪問先を更に検討し、SDGsを推進する企業や大学等に加え、環境問題や防災など、今日的課題への意識を喚起し、将来のリーダーとして視野を広げるプログラム等を検討していきたいと考えている。

□ 高校生の離島留学推進事業について

(鵜瀬和博委員)

離島留学推進事業における受入れ助成制度の内容と里親として離島留学生を受け入れるための住宅改修費の助成はあるのか。

(高校教育課長)

離島留学推進事業における助成制度については、1つ目に入学前に実施している宿泊体験及び体験入学に対する交通費や宿泊費の補助、2つ目にホームステイ費補助を行っており、例えば壱岐市の場合、ホームステイ費用8万円のうち、国が2万円、県と市がそれぞれ1万円の合計4万円を補助している。3つ目に県外から来ている離島留学生に対する長期休業中の帰省費の補助を行っており、3つの助成制度を設けている。また、里親住居の改修費用については、政府施策要望という形で国に要望するなど里親さんへの支援についても行っているところである。

(鵜瀬和博委員)

里親さんから燃油・物価高により大変苦労しているという声を聞いているが、各産業と合わせて里親さんに対する燃油・物価高に対する支援をお願いしたいと思うがどうか。

(高校教育課長)

離島留学制度については、親元を離れて生活するため、安全・安心な生活という意味では里親さんの存在は欠かせないものになっている。ホームステイ費用については、県と市で1万円ずつ補助をしているところだが、平成30年度にホームステイ費用を値上げした際には県と関係市が協議をしてきたという経緯があり、委員ご指摘の燃油・物価高支援についても、里親さんの実態把握に努めるとともに、実情を踏まえて今後の国に

よる物価高騰に対する支援策が活用できないかも検討しながら関係市と協議をしたいと考えている。

□ 学校給食費について

(坂本浩委員)

学校給食について、前回の議会でも学校給食の無償化の問題等について、やり取りをさせていただいた。今回の一般質問でもあったが、いま物価高騰による学校給食費の保護者負担軽減について、新型コロナウイルスの関係の地方創生臨時交付金を活用して、全国の多くの自治体が、時限的なものを含め、実施ないしは実施予定であることが、文科省の調査で判明している。県内でも一般質問でもあったように、川棚町がこの臨時交付金を活用したかどうかかわからないが、年度内には実施するということが、県内の各市町で川棚町以外に臨時交付金を活用した事例というのがあるのかどうかは把握しているか。

(体育保健課長)

物価高騰に対応した臨時交付金の活用については、本県21市町のうち18市町において活用されているということで伺っている。

(坂本浩委員)

18市町が活用しているというのは、あくまでもこれは物価高騰に対する保護者負担の軽減で、一時的なものという理解でいいか。

(体育保健課長)

川棚町については、臨時交付金を活用し、本年度に限っては無償化ということで伺っているが、他の市町については、物価高騰部分を補填し、保護者の負担軽減を図るという対応と伺っている。

(坂本浩委員)

それは、仕入れ価格の高騰によって少し上がる部分に充てているということか。

(体育保健課長)

そのとおりである。

□ 教職員の働き方改革について

(坂本浩委員)

公立小中学校における現在の超過勤務の実態は。

(義務教育課人事管理監)

80時間超えの教職員については、令和4年度上半期においては、小学校が0.3%、

中学校が4.0%である。45時間超えについては、小学校が14.2%、中学校が33.1%、義務教育学校が11.3%である。平成30年度から調査をしているが、年を追うごとに、着実に減少している。今後新たに取り組もうとしていることとして、上限時間1カ月45時間以内、1年間360時間以内を目指して、成果目標を市町教育委員会と相談しながら設定する。具体的には、教頭の定時退校日の設定を増やす、中学校部活動の複数顧問体制を推進していく、さらには、学校、PTA、地域における行事や組織の一体的な見直しを図っていくことで、さらに超過勤務の縮減につなげていきたい。

(坂本浩委員)

子どもたちへの対応などで昼休みが十分とれていないとの声もあるが、県教委の認識は。

(義務教育課人事管理監)

基本的には、休憩時間は一齐に、また、開始から終業までの間にとることとなっているため、その中でしっかりと時間を設定して取ることになるが、子どもが目の前にいるのに休憩を取ることは、なかなか難しい状況であることは確かである。そこも含めて、どのような体制で休憩を取ることができるのか、さまざまな方策を検討しているところである。

□ 教員不足について

(坂本浩委員)

教職員定数の充足状況は。

(義務教育課人事管理監)

年度当初、必要な教職員の定数については、すべての学校に配置している。年度途中の、病休や休職の方々に対する代替については、臨時的任用教職員も不足している中で、十分に配置できていない状況があるが、非常勤講師を配置するなど、少しでも先生方の負担や子どもたちの教育のためにということで配置をしている。

(坂本浩委員)

働き方改革と連動して、教職員の人手不足についても取組を進めてほしい。

「予算決算委員会 文教厚生分科会」での教育委員会関係の主な概要【12/20：追加】

【議案】

□ 第134号議案 「令和4年度長崎県一般会計補正予算（第13号）」
のうち関係部分

→ 可決

□ 農業高校における農場へのLAN整備及び虹の原特別支援学校外2校の増築工事等について

(坂本 浩 委員)

今回の補正の中で、農業高校の1人1台パソコンのさらなる活用のための農場へのLANの整備経費、それから虹の原特別支援学校外2校の増築工事等は繰越明許費となっているが、本来当初予算で計上すべきだったものではないのか。

(教育環境整備課長)

農業高校のLANと特別支援学校の施設整備については、来年度の当初予算で実施を計画していたところであるが、国の経済対策補正により前倒しの補正予算の対象となったため、今回計上したものである。